

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	そらふねchouchouクラブ		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数) 10
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日	～	令和8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レゴブロックを中心教材として療育メニューを組み立てているところ	取り組み時に並行遊びだけにとどまらないよう他者と関わりを持てるよう児童同士のコミュニケーション時のサポートを重視している	段ボールなどの廃材を利用する中でレゴブロックを活用できるような制作などを通じてエコなどの意識や創意工夫する力の向上につながるような取り組みを目指す
2	レゴブロック以外にも手指の巧緻性を高めていく塗り絵や写真など興味をもって取り組める療育メニューの考案	「やらされる」ではなく「やってみよう」が増えることを意識して療育を進めている	粗大運動の充実（特に縄跳びや鉄棒など）スモールステップで身につけていけるようなカリキュラムを作っていく
3	事業所内のレイアウトがシンプルなので活動をするうえで先の見通しがつきやすい	外部刺激を低減するために出来るだけ器具や玩具が目につかないようにしている	感覚入力の行動や感覚過敏に対応しやすいように安全面の配慮をより高めていく

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	痙攣などが起きたときの対応の仕方	スタッフの経験や療育の知識などにバラツキがみられる	事業所内の療育研修（特性への理解や対応の仕方など）の質の向上。痙攣に至る前の段階の考察や観察する力の向上に努める
2	発語が少ない児童へのアプローチ方法	読み聞かせや電子ピアノでリトミックなどを行っているが不十分な状況	木製玩具やスライムなどを使った感覚遊びを通じて5感への働きかけを行っていく
3	粗大運動などのスペースが少ない	個別活動のための個室がある一方集団での活動時に（人数が多いとき）狭さを感じることもある	粗大運動などを近隣の公園などでの所外活動などを考えていく必要がある

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名		そらふねchouchouクラブ		公表日		令和 8年 5月 1日			
		利用児童数		15		回収数		10	
		チェック項目				ご意見	ご意見を踏まえた対応		
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	8	1		1	ちょうど良いと思います 少し狭い印象ですが子供にはあってると 思います	物を最小限にし出来るだけ広く感じて もらえるよう工夫してまいります	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	9			1	良くしてもらってます	今後も、配置基準を遵守した事業運営に 努めます	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思 いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や 情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	10				個室で集中しやすそう トイレが綺麗	今後も、活動時の環境が分かりやすいよ うに構造化や環境調整に努めてまいり ます	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。 また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	10				清潔感がある 壁紙が可愛いです すごくおしゃれな感じ	ありがとうございます。 今後も清潔感のある心地よい 施設作りを継続できるよう努めます	
適切 な支 援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援 が受けられていると思いますか。	10				子どものことを色々教えてもらってます 成長を感じます	研修等で個々の発達特性について理解 し実践できるようスタッフの質の向上に 努めていきます	
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と 合っていると思いますか。	9					5領域に基づいた支援プログラムに沿っ た療育メニューの実施を心掛けてまいり ます	
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分 析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思 いますか。	10				ていねいな説明でした	AIコマー（アセスメントツール）を使用 して詳細に分析を行っています	
	8	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提 供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支 援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体 的な支援内容が設定されていると思いますか。	10					AIコマー（アセスメントツール）を使用 し、保護者やりお子様の意向を確認し、 5療域に基づいて必要項目を適切に選択 しています	
	9	児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	10					アセスメントやモニタリング時の詳細な 支援内容の説明を心掛けてまいります	
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思います か。	10				楽しい活動ばかりです 季節に合わせたプログラムになってると 思います	毎月のプログラムミーティングの継続と 朝礼時など、必要に応じて話し合いブ ラッシュアップしていきます	
	11	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他のこどもと 活動する機会がありますか。	1	7			2		今後、幼稚園との交流の機会など検討し てまいります
	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等につい て丁寧な説明がありましたか。	10				ていねいでした	今後も分かりやすい説明に努めて まいります	
	13	「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	10				詳しく説明いただきました	今後も分かりやすい説明に努めて まいります	
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニ ング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていま すか。	5	2			3	療育に関する情報提供や保護者 参加の行事や研修会などが沢山 開催できるよう考えてまいります	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況に ついて共通理解ができていますか。	10					送迎時なども含めて連絡や相談がしや すいようにしていきます	

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	10				いつも相談にのっていただいています 電話で相談しています	定期的なモニタリングに加え、園や家庭での困りごとなどありましたら遠慮なくご相談ください
	17	事業所の職員から共感的に支援がされていると思いますか。	10				先生がやさしいです 親身になってもらいたいです	個々の発達特性について理解を深めてまいります
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	10					父母会やワークショップ等の開催を予定しています
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	10					今後も連絡帳や電話でのご相談などがありましたら迅速に対応してまいります
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	10				連絡帳に写真があるので楽しみに見えています	コドモン（連絡帳アプリ）の有効活用に努めます
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	10					活動記録の質向上と様子が伝わるような写真添付を心掛けます
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	10					鍵付きの書庫での管理及びPC等のパスワード管理で個人情報を大切に保管しています
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	10					各マニュアルに沿って適宜訓練を実施してまいります
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	8	1		1		定期的な訓練の実施や消防署見学などの所外活動により災害に対する防災意識を高めていきます
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	9			1		安全面に配慮した活動を継続できるよう努めます
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	10					これまで、幸い大きな事故等ありませんが安全の確保と事故発生時の速やかな対応と連絡に努めます
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	10				楽しく通ってます ありがとうございます	これからも安心安全な施設運営に努めてまいります
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	10				大好きです 幼稚園より好きみたいです	これからも楽しい時間を過ごしてもらえよう頑張ります
	29	事業所の支援に満足していますか。	10				笑顔で帰ってきます いつもありがとうございます	今後も利用児童様や保護者様に満足いただけるよう努めてまいります

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		公表日			
そらふねchouchouクラブ		令和8年 5月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		活動エリアが複数になるときの人員配置を考えて実施しています	今後、送迎希望者が増加した時の準備として車両の増車を検討していく
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		間仕切りなどを利用して外部刺激などの軽減に繋がるよう環境整備に努めています	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		普段の清掃及び療育設備（運動器具や玩具等）のアルコール消毒など行っています	より一層清潔な空間を保持していくために空気清浄機等の導入を検討
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		移動式の間仕切り等を使用して個別の空間を作っている	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		業務効率などについて話し合い解決するようにしています	
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		通年を通して保護者の意向を把握するため送迎時などに電話面談などの提案を行い、その内容をスタッフ間で共有し改善策を話し合っています	頂いたご意見を参考によりよい事業運営に努めてまいります
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		ミーティングや研修の場で意見を出し合っています	スタッフが意見を出しやすい環境の実現
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		必要に応じて検討予定
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資質向上のため療育研修の実施及び必要に応じて外部研修（民間・市町村）や事業所連絡会主催の講演などに参加するようにしている	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		自社ホームページに掲載	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		家庭や学校での様子や課題を把握したうえで課題分析を行っています	
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		個別支援計画の内容をスタッフ全員が共有したうえで支援を行っています	スタッフ間の知識や質に差が出ないよう研修等で質の向上を図る必要がある
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツール（AIコミー）を導入活用している	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		5療域に照らし合わせて個々の特性に合わせて設定しています	地域連携などについては、社会資源や地域サービスなどとの関係をより深めていく必要がある
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		スタッフミーティングで行っています	
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		中心となる療育メニュー以外の取り組み内容は月々あるいは季節などによってその都度変えています	その日の気分などで気持ちにムラがあり参加しづらいときの対処方法

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○				
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前日の振り返り及び当日の利用者・療育内容・運行表の確認を行う	連携ミスが起こらないようチームでフィードバックなどの振り返りが必要	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		連絡帳の記入とともに当日の振り返り及び保護者からの伝達事項の確認		
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		コドモン（療育）アプリを活用して検証改善につなげている		
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		3ヶ月から6ヶ月を目安に適宜見直し	引き続き、必要に応じて適宜見直しを行っていくこと	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加		
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		保護者の了解のもと、関係機関や医療機関等と連携できるようにしています	今後さらに連携を強化していきます	
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者及び幼稚園との情報共有や必要に応じて家庭や幼稚園への訪問を実施	今後さらに連携を強化していきます	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		依頼があれば適宜対応	今後さらに連携を強化していきます	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。					
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。					
	30	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。					
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○				
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○			今後、幼稚園等の関係機関への依頼や相談等を行って交流の機会を持つ方法を模索していく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○				
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者会やワークショップなどを開催を検討している	保護者の要望を確認した上で秋（9月頃）にワークショップの開催を検討していく	
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画案作成に当たっては、アセスメント内容をもとに保護者や利用者の意思や希望を取り入れ作成を行っている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		毎回行っている	説明と同意を念頭に置き今後も丁寧な説明を行ってまいります
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳や送迎時に相談などのやり取りを行い、必要に応じて事業所面談及び家庭訪問・電話面談などを行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		父母の会などの開催を視野に検討している	今年度中の開催を検討する
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		申し入れがあった際には当日中に相談日や相談方法について連絡相談を行っています	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		コドモンアプリ（連絡帳）の導入	SNS（インスタグラム等）の検討
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵のかかる書庫への保管及び各PCなどをIDとパスワードで管理している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		コドモンアプリ（連絡帳）の導入	写真等、視覚的に分かりやすい伝達を増やしていく
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		開所間もない為、実績なし	夏まつりやクリスマスイベントの一般開放等を検討中
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		季節ごとにスタッフ研修や保護者への注意喚起（感染症など）を行っています	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害等に備え、避難訓練等を実施予定	防災意識の向上の一環として消防署見学などの所外活動を検討していく
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		初回アセスメントに必ず確認	緊急時の対応が求められるのでスタッフ間で共通理解を深める必要がある
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの指示にて対応	緊急時の対応が求められるのでスタッフ間で共通理解を深める必要がある
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		安全計画に基づいて必要な措置を講じながら支援を行っている	
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			コドモンなどの連絡アプリを活用してより分かりやすく周知していく必要がある
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		スタッフミーティングや事例検討研修会などで再発防止策を講じています	過去の事例の振り返りなども行うことで防止策の質を高めていく必要がある
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年2回実施（内部・外部研修）	
53	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	○		年1回開催	引き続き定期的な研修を行ってまいります	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		委員会などで組織的に決めています		

公表

事業所における自己評価総括表（児童発達支援）

○事業所名	そらふねfunfunクラブ		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26	(回答者数) 16
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 1日		～ 令和8年 3月 15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レゴブロックを中心教材として療育メニューを組み立てているところ	取り組み時に並行遊びだけにとどまらないよう他者と関わりを持てるよう児童同士のコミュニケーション時のサポートを重視している	段ボールなどの廃材を利用する中でレゴブロックを活用できるような制作などを通じてエコなどの意識や創意工夫する力の向上につながるような取り組みを目指す
2	レゴブロック以外にも手指の巧緻性を高めていくスクラッチアートなど興味をもって取り組める療育メニューの考案	「やらされる」ではなく「やってみよう」が増えることを意識して療育を進めている	粗大運動の充実（特に縄跳びや鉄棒など）スモールステップで身につけていけるようなカリキュラムを作っていく
3			

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	癇癇などが起きたときの対応の仕方	スタッフの経験や療育の知識などにバラツキがみられる	事業所内の療育研修（特性への理解や対応の仕方など）の質の向上。癇癇に至る前の段階の考察や観察する力の向上に努める
2	発語が少ない児童へのアプローチ方法	読み聞かせや電子ピアノでリトミックなどを行っているが不十分な状況	木製玩具やスライムなどを使った感覚遊びを通じて5感への働きかけを行っていく
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（児童発達支援）

事業所名 そらふねfunfunクラブ

公表日 令和 8年 5月 1日

利用児童数

26

回収数 16

	チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	16				走り回ってるようです 広々としている	
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	16					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	15				きれいにできてます 物が少ないので整理された感じです	今後も、活動時の環境が分かりやすいように構造化や環境調整に努めてまいります
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	16				活動の場所が分かりやすいと思います 綺麗だと感じます	
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	14	1		1	気持ちの切り替えが難しいときにも 上手に話して聞かせてられています	
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	15			1		
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	16				分かりやすく説明していただきました	
	8 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	14	1		1	よく相談のっていただき助かって います 楽しんで通っています	
	9 児童発達支援計画に沿った支援が行われていると思いますか。	15	1				
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	16				新しいレゴが入るたびを楽しんでいます 季節の工作が楽しみです いろんなゲームをしてもらってます	
	11 保育所や認定子ども園、幼稚園等との交流や、その他地域で他の子どもと活動する機会がありますか。	4	4		8		
12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	16						
13 「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	16						
14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	11	2		3	親子ワークショップを楽しみ にしています 交流会があるとよい	療育に関する情報提供や保護者 参加の行事や研修会などが沢山 開催できるよう考えてまいります	
15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達の状況について共通理解ができていますか。	16						

保護者への説明等	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	15	1			お世話になり助かっています	
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	16					
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいの支援がされていますか。	12	2				
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	15	1			電話で相談しています 自宅に来てもらいました	今後も連絡帳や電話でのご相談などがありましたら迅速に対応してまいります
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	16				コドモンが良い 毎回写真が楽しみです 連絡帳に詳しく書いてもらってます	
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	14	1		1		
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	16					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	13			3		
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	15			1	消防署の見学が楽しかったようです	
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	14					
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	14				熱が出たときなど連絡してもらっています	これまで、幸い大きな事故等ありませんが安全の確保と事故発生時の速やかな対応と連絡に努めます
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	16				親子ともども安心して 信頼しているようです	
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	16				「今日は、そらふねある？」と聞いてくるほど楽しみにしています	
	29	事業所の支援に満足していますか。	16				楽しそうです 喜んで通っています	

公表

事業所における自己評価結果（児童発達支援）

事業所名		公表日			
そらふねfunfunクラブ		令和8年 5月 1日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
環境・体制整備	1 利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○			
	2 利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		配置基準以上の人員配置を心掛けています	
	3 生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		間仕切りなどを利用して外部刺激などの軽減に繋がるよう環境整備に努めています	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		空気清浄機や次亜塩素酸などを使用して清潔な空間保持に努めています	
	5 必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		部屋が分割できるよう間仕切りを設置している	
業務改善	6 業務改善を進めるための PDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○			
	7 保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			頂いたご意見を参考によりよい事業運営に努めてまいります
	8 職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		必要に応じて検討予定
	10 職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		資質向上のため療育研修の実施及び必要に応じて外部研修（民間・市町村）や事業所連絡会主催の講演などに参加するようにしている	
適切な支援の提供	11 適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		自社ホームページに掲載	
	12 個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○			
	13 児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14 児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○			
	15 こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツール（AIコミー）を導入活用している	
	16 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17 活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○			
	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		中心となる療育メニュー以外の取り組み内容は月々あるいは季節などによってその都度変えています	

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		前日の振り返り及び当日の利用者・療育内容・運行表の確認を行う	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		連絡帳の記入とともに当日の振り返り及び保護者からの伝達事項の確認	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		コドモン（療育）アプリを活用して検証改善につなげている	
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		3ヶ月から6ヶ月を目安に適宜見直し	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		基本的に児童発達支援管理責任者が参加	
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		保護者及び幼稚園との情報共有や必要に応じて家庭や幼稚園への訪問を実施	
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		依頼があれば適宜対応	
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○			
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。		○		今後、幼稚園等の関係機関への依頼や相談等を行って交流の機会を持つ方法を模索していく
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○			
34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		保護者会やワークショップなどを開催	秋(9月頃)にペアトレの開催を予定	
35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○				

保護者への説明等	36	児童発達支援計画を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画案作成に当たっては、アセスメント内容をもとに保護者や利用者の医師や希望を取り入れ作成を行っている	
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		毎回行っている	
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		連絡帳や送迎時に相談などのやり取りを行い、必要に応じて事業所面談及び家庭訪問・電話面談などを行っている	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	40	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵のかかる書庫への保管及び各PCなどをIDとパスワードで管理している	
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		夏まつりやクリスマスイベントの一般開放等を検討中
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		初回アセスメントに必ず確認	
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者からの指示にて対応	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年2回実施（内部・外部研修）	
53	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	○		年1回開催		
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○				

公表

事業所における自己評価総括表（放課後等デイサービス）

○事業所名	そらふねfunfunクラブ		
○保護者評価実施期間	令和8年 3月 15日		～ 令和8年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	12	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和8年 3月 15日		～ 令和8年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数) 6
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 5月 1日		

○分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	レゴブロックを中心教材として療育メニューを組み立てているところ	取り組み時に並行遊びだけにとどまらないよう他者と関わりを持てるよう児童同士のコミュニケーション時のサポートを重視している	段ボールなどの廃材を利用する中でレゴブロックを活用できるような制作などを通じてエコなどの意識や創意工夫する力の向上につながるような取り組みを目指す
2	レゴブロック以外にも手指の巧緻性を高めていくスクラッチアートなど興味をもって取り組める療育メニューの考案	「やらされるで」ではなく「やってみよう」が増えることを意識して療育を進めている	粗大運動の充実（特に縄跳びや鉄棒など）スモールステップで身につけていけるようなカリキュラムを作っていく
3			

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	宿題等のサポートの進め方	その日の気分や学年によって宿題の量などが各々がうため所要時間がまちまちになる	療育活動のスケジュールに合わせて宿題サポートを行う必要があるため、一斉指示などが入りやすいように声かけの仕方や環境調整を行っていく必要がある
2	季節によっては外遊びなどの粗大運動の機会が少ない	気候の良い季節は、学校休日の時に外出等の機会を設けているが頻度としては少ない	室内遊具だけでなくボールなどを使った全身運動などを増やしていく
3			

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果（放課後等デイサービス）

事業所名	そらふねfunfunクラブ
------	---------------

公表日 令和 8年 5月 1日

利用児童数 12

回収数 7

	チェック項目					ご意見	ご意見を踏まえた対応
		はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない		
環境・ 体制 整備	1 子どもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	7				広いと思います	構造化と整理整頓と清潔に努めてまいります
	2 職員の配置数は適切であると思いますか。	7					
	3 生活空間は、子どもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	7					障がい特性に配慮して環境調整を行うよう努めています
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	7				ボール遊びが楽しいようです 清潔感があります 広くて過ごしやすいと思います	整理整頓及び清潔の保持に努めています
適切 な 支 援 の 提 供	5 子どものことを十分に理解し、子どもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	7				痛癢が減りました いつもアドバイスしていただき ありがとうございます	個別の特性への理解を研修等で深め質の向上を図っています
	6 事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	6			1		今後も、より分かりやすい説明に努めます
	7 子どものことを十分理解し、子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	7					ひとりひとりに合った支援プログラムと実施状況をお伝えできるように努めます
	8 放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	7					ひとりひとりに合った支援プログラムと実施状況をお伝えできるように努めます
	9 放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	7					
	10 事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	7				いつも楽しそうに帰ってきます 楽しんでます	個別集団問わずプログラムがマンネリ化しないよう常にブラッシュアップに努めます
	11 放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会がありますか。	4	3				夏まつりのイベントなどで地域の方と関われる方法を模索中です
保 護 者 へ の 説 明 等	12 事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	6					利用時の保護者さんへの不安等が無いように丁寧な説明を今後も行ってまいります
	13 「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	7					説明と同意を大切に丁寧な説明を心掛けてまいります
	14 事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	7					新一年生の方が今年度は多いので保護者様の不安軽減の一助となるようペアトレの開催を考えています
	15 日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの健康や発達状況について共通理解ができていると思いますか。	6	1				
	16 定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	7				電話で相談しています いつもありがとうございます	気軽に相談できる環境を今以上に整えてまいります
	17 事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	7					
	18 父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	6	1			また、父母交流できたら嬉しいです 親子ワークショップ楽しみです	夏のお祭りイベントやハロウィンやクリスマス時期にワークショップ開催を予定しています
19 子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	7						

	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	7				今後も連絡アプリを有効活用しその日の様子など分かりやすく伝えていけるよう工夫してまいります
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	6			毎回コドモンの写真を楽しみにしています 連絡アプリが楽です	保護者様が必要とされる情報などの発信に今後も努めてまいります
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	7				鍵付き書庫及びパソコン関係のパスワードでの管理を行っています
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	6			1	
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	6			1	所外活動の一環で地域の消防施設等の見学を毎年行っています
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	6			1	厚めのマットで安心 療育中の安全はもとより、災害時の準備として避難訓練なども随時行ってまいります
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	7				発熱時などすぐに連絡をもらっています 事故等が起こった際は緊急連絡先に速やかに連絡し最善を尽くします
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	7				先生の話の家でもしています 日々の取り組みに見通しを持って活動できるよう工夫してまいります
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	7				毎日行きたいと言ってます 大好きです これからも、通うのが楽しみな事業所であり続けるよう努力して参ります
	29	事業所の支援に満足していますか。	7				レゴが好きになり家でも遊んでいます いつもありがとうございます レゴは、無限の可能性が秘められております。今後もレゴを活用した新しい療育メニューを探索してまいります

公表

事業所における自己評価結果（放課後等デイサービス）

事業所名	そらふねfunfunクラブ		公表日	令和8年 5月 1日		
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		基準より広めのスペースを確保してノビノビと過ごしてもらえるようにしています	広すぎることで取り組み中に離席につながる可能性があるため間仕切りなどの活用で環境調整を行う必要がある
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		外部刺激に弱いなどの特性を踏まえて構造化に努めています	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		室内の清潔保持及び玩具などのアルコール消毒などを実施しています	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		週初めの朝礼などで確認及び伝達を行っています	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			ご意見やご意向を精査しより良い事業運営に努めます
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		必要に応じて検討予定
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		毎月の定例研修に加え市町村や民間開催の外部研修への参加を行っています	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		自社ホームページに掲載	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		対面での聞き取りに加えてアセスメントツール（AIコミー）等を使用して細やかな課題分析に努めています	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		新規更新時には、サービス担当者会議や療育会議においてスタッフ間で情報共有を行い現場での支援に活かすようにしています	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		アセスメントツール（AIコミー）を使用	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		全スタッフでプログラムミーティングを行い決定しています	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		書籍やネットなどを参考に通所中の児童の特性に合うものを季節に合わせて変えています	所外活動が少ないので今後検討していく

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		5療域に基づいて個別と集団・微細と粗大などのバランスを考慮して決めています	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		朝礼の実施	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		終礼の実施	連絡帳記入の兼ね合いで翌日の朝礼での振り返りになることがあるので連絡帳記入時間の短縮の方法を検討していく
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		コドモンアプリにて記録	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○			
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	○			
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		療育メニューを実施するにあたっては本人の意思決定がされるよう選択肢をいくつか用意するようにしている	自己決定が、やりたいことばかりに偏りすぎる際の対応方法
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○			
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○			
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		学校へのあいさつや送迎時のルール及び安全確保についての確認 身分証の携行とスタッフの顔写真を提供	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○			
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○			
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○			
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○			現在、交流等は実施していないため地域資源の確認と方法を検討していく予定です
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		地域連絡会には、出来る限り参加している	自立支援協議会への参加も積極的に行えるよう検討していきます
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		送迎時はもちろんのこと、電話や連絡帳アプリなどによって情報共有などの連絡相談をしている	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		市町村で開催される研修の紹介 事業所主催のイベントの開催	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約時及び計画案及び計画作成時に説明を行っている	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		計画案から本計画に移行する際に保護者や利用児童と確認相談しながら進めています	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		計画案の段階から保護者や利用者の意向を尊重し作成している。計画作成後は、説明と同意を得たうえでサインしていただく	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		送迎時にもその日の報告にとどまらず最近の成長や困りごとなど尋ね必要に応じて自宅訪問や電話相談など行っています	より相談しやすい環境を作るためSMSや各種ツールの利用様など考えていきたい

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○			
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○			
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	○		自社ホームページに掲載	SNSの活用等の検討しているが個人情報等の観点から慎重に協議していく予定
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		鍵付きの書庫にて保管及びPC内の情報に関してはパスワードにて管理している	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		一般開放や各種イベントを考えているが、利用者の個人情報等の観点から実施困難（今後も検討していく）
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○			
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		防災の日の前後に避難訓練を実施。 防災意識向上のため社会科見学（消防署等）を実施。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	○		アセスメント及びモニタリング時に確認	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		保護者の意向にて対応	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○			
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○			
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		年2回の事例検討に加え、必要（緊急に対応する事例）に応じて朝礼終礼等の時間に情報共有及び再発防止策を検討する	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年2回以上（内部研修及び外部研修）	
	54	虐待防止委員会及び身体拘束適正化検討委員会を定期的に開催し、その結果について従業者に周知徹底しているか。	○		年1回開催	
55	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		該当するケースはありませんが、身体拘束については社内マニュアル（必要に応じて更新）に沿って適正に対処してまいります		